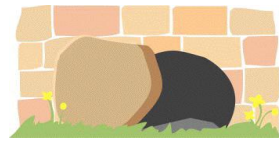


風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

7:13 すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」14 そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じます」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。15 それゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、／昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、／この者たちの上に幕屋を張る。16 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、／太陽も、どのような暑さも、／彼らを襲うことはない。17 玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、／命の水の泉へ導き、／神が彼らの目から涙をことごとく／ぬぐわれるからである。」

ヨハネ黙示録7：13－17

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。 ヨハネによる福音書10：27

【説教要旨】

「わたしと父とは一つである。ヨハネによる福音書10:30」というイエスさまの言葉も一神とイエスさまが同等一神を冒瀆している言葉であり、十字架の死の原因ともなったのです。

キリスト教がユダ教の分派でなく、まったく新しい教会となっていく宣言です。それはユダヤ人にとっては、聞くに耐えなく、キリスト教会をますます迫害へと向かわせる原因ともなっていたのです。

しかし、敢えて、「わたしと父とは一つである。」と言って、ユダヤ教の強い反発を受けることをしたのでしょうか。どこまでいっても父なる

神と子なるイエスさまは違います。

「イエスと父なる神とは、別々のペルソナです。同一でない二者でありながら、一つであるということなのです。……一つであるという鍵は『神は愛である』ということです。真実の愛は、完全に互いを渡し合います。互いのいのちが交流しあいます。……父と子は愛によって完全に一つなのです」①

キリスト教が愛の宗教と言われるのはここにあるのです。自分を渡しても、真実な愛を他者へ渡すという事です。

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。フィリピ信徒への手紙2：5－8

「互いにこのことを心がけなさい。」、隣人を愛するということです。イエスさまは私たちを愛してくださり、そのペルソナを私たちに渡してくださり、人となりました。そして、私たちが神の真実な愛に生かされていく恵みをくださいました。

イエスさまはこう祈ります。

「17:21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。22 あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。ヨハネによる福音書17：21－23」

私たちを神とイエスさまの一致へと導き、罪深い人を愛することの出来ない私たちのペルソナを渡し合うことによって、私たちが真実に愛

の人となることを祈るのです。

ペテロは、ヤッファで大きな出来事に合い、次のように言います。「そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。使徒言行録10:34～35」と、救いの外にある異邦人も神の真実の愛に生かされている人だと気づくのです。救いのうちにあるユダヤ人、救いの外にある異邦人の互いを渡し合い、互いの命の交流が起こり、真実な愛を伝えるキリスト教会に変貌していきます。それは、多くの誤解を生みだし、キリスト教の迫害が続きました。目に涙することも、悲しみも嘆きも労苦もあるでしょう。しかし、神の、キリストの声を聞き分け、キリストの交流において、愛に生かされていることを知り、キリストに従っていきました。トランプ大統領はアメリカへの不法難民を国外へ追放します。また、日本でも今、入管が厳しくなったと外国人の保護者から聞きます。そういう時代の流れ、私たちがどうあることが主が望まれているのでしょうか。

現代、もっとも私たちが伝えなければいけないことは、「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。:35 どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。」ということではないでしょうか。互いが完全に渡し合い、命の交流です。真実な愛こそが、現代に生きる私たちに最も必要なことです。

私たちは真実な愛を伝えることが涙を生み出し、苦難を生み出すでしょうが、私たちは神の、イエスさまの声を聞き分け、神と、イエスさまと一つとなり真実な愛を伝えるために汗をかく甘木教会の一人ひとりでありたいものです。

イエスさまは、「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、／命の水の泉へ導き、／神が彼らの目から涙をことごとく／ぬぐい」とってくださいます。

愛の渡し合いの向こうには永遠の命の世界があります。

牧師室の小窓からのぞいてみると



「教会は母であって、自分の子らにあわれみのわざを教えています。……教会で生きるとは、何とすばらしいことでしょう。母なる教会は、イエスが教えてくださったこうしたことを教えます。あわれみの道と言う生き方を教えてくれる母として、わたしたちに教会と言う恵みを与えてくださった主に感謝しましょう。…」(「母なる教会 2 あわれみのわざを教える教会」の項より) 教皇フランシスコの言葉。

すべての自分のことしか考えない時代だからこそ、教会はあわれみの道を歩むことです。新しい教皇レオ 14 世もそうあってほしいものです。

※「秘跡 聖霊のたまもの 教会 ー教皇講話集」 ペテロ文庫

園長・瞑想？迷走記

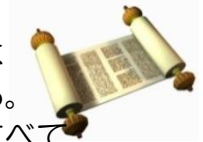


今、とても嬉しいことは、日善幼稚園が、教会立幼稚園として教会と一緒に歩み出したことです。まだまだ模索中ですが、光がさしてきました。月曜日の子ども礼拝には教会の方々が参加し、自然に奏楽や子どもたちに配慮くださり手伝ってくださいます。木曜日には私が松崎保育園の礼拝担当で午後から甘木聖和幼稚園の管理で一日を開ける時、幼稚園運営委員、元園長が来てくださり、寄り添ってくださいます。そして、今回は、ボランティア募集まで出来るようになりました。

一方、責任をもっている職員には気になるころですが、ある先生は、「ありがとうございます」と教会の方に一言をかけてくださいます。「一つであるという鍵は『神は愛である』ということです。真実の愛は、完全に互いを渡し合います。互いのいのちが交流しあいます。……父と子は愛によって完全に一つなのです」と森司祭が言われるように「父と子は愛によって完全に一つ」ということが、宗教法人立の醍醐味ではないでしょうか。確かに宗教法人立は地方では財政的補助はありません。しかし、「父と子は愛によって完全に一つ」という宝をいただけます。

日毎の糧

主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。主は信仰ある人を守り／傲慢な者には厳しく報いられる。雄々しくあれ、心を強くせよ／主を待ち望む人はすべて。



詩篇31：24－25

ルター言葉から



私たちのわざによって神をさらに強め、さらに富ませるなどということは不可能ですが、隣人を強め、富ませることはできます。隣人は私たちのわざを必要としています。ですから、私たちの善き業は隣人に向けるべきであって、神に向けるべきではないのです。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

神でなく隣人へ

ルターは面白い表現をしています。「私たちの善き業は隣人に向けるべきであって、神に向けるべきではないのです。」と。神は抽象的なものであて、具体的ではありません。しかし、隣人は具体的に私たちの周りにいます。イエスさまは、「いと、弱き者にしたるは、我にしたり」といわれます。善きわざを隣人に向けることは、イエスさま、神さまに向けることなのです。その逆はありません。「神のために」という言葉ほど虚しく嘘はありません。

アメリカ大統領トランプさんの硬い支持基盤は保守派キリスト教徒です。ときどきこの人たちのキリスト教信仰はどういう信仰なのか不思議でなりません。「主を愛せよ。主は信仰ある人を守り／傲慢な者には厳しく報いられる。」ということから来るのではないかと思います。「主を愛する」ものは報われるが、主を愛さないものはだめだという壁を作るのではないのでしょうか。

イエスさまは十字架で主を愛するかどうかでなく、罪人と一緒に苦しみを受け、赦しを神に乞いました。ルターのいう「私たちの善き業は隣人に向けるべきであって、神に向けるべきではないのです。」ということはイエスを見よ、十字架のイエスを見よということではないのでしょうか。それが「主を愛する」ということです。あなたの傍にいる隣人へ善きわざを弛まずしていきましょう。

祈り：隣人へ善き業を向けていくことに力をください。

甘木通信

「ひかり子学園」を創立した私の受洗牧師、内野牧師がいつも、どこかで、これが牧師のすることかと悩んで言い訳をしているのを感じたことがある。実際長い牧師生活で、施設長、例えば幼稚園園長になると「幼稚園ばかりして伝道をしていない」という批判の声があつた。

先日、「日本キリスト教神学小史 教義学視点から」（近藤勝彦著 教文館）を読んでいると日本の教会のあり方を決めた植村正久の項で面白い文章に出合った。

「植村正久においてイエス・キリストは神であり、主であるとの信仰は終始一貫、揺るぎのないものであつて、その主のものとされて伝道者・牧師であることは何よりも光栄なことであつた。それが彼の神学・教義学の必須の基盤であつたのである」。佐藤敏彦師は「植村正久」と言う本で、植村正久は、神学校の教師やキリスト教学校（幼稚園、施設）の教師になることをあえて軽蔑する気風さえ作りだしたと書いている。なるほど、内野牧師の悩みはここから来たのだ。東海教区で在任中、自分自身もこの気風をもっていた。しかし、偶然だが段々と教会の財務、福祉事業、幼稚園と関りが深くなり、内野牧師の悩みは、私の悩みとなってきた。「竹田先生はお金のこともよく分かっておられますが、私は聖書のことしか分かりません。」と友人の牧師から言われたこともある。

「教会の牧師たることを無上の光栄とする召命感、決して損なわれてはならない」（近藤勝彦）という植村正久の神学・教義学の必須の基盤を忘れることなく、教会財務、福祉事業、幼稚園事業に取り組んでいかないと足をすくわれることを肝に銘じている。だから人以上に伝道、教会形成に取り組んできたことも内野牧師より教えられた。



（甘木日記）土）入院中の説教原稿を作る。甘木泊。日）掃除、礼拝と日常。礼拝後、聖和幼稚園に鯉のぼりをあげ、入院中の引き継ぎを全員で打ち合わせ。夜、総会で退任の挨拶の為に東京。月）総会。退任の挨拶。火）早朝、説教要旨の「風のように」を作り、夜、役員に送付。無事に帰宅。水）日善幼稚園、午後から大学病院へ。再検査。入院延長。木）教皇選挙開始。松崎保育園で聖書の学び、礼拝が終わると日善幼稚園で怪我人が出て、急遽、園に戻る。教皇が選ばれ、レオ14世が誕生。福音が広がりますように。職員会議事録を作成。金）雨、草花に恵み。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）夫婦で、午前中から甘木教会へ。芝の草取り、入院中のための準備だが、牧師シャツ、マウスを忘れて、一旦、久留米に取りにもどる。こういうときもある。「思い煩うな」かなと思いつつも、病気のことを思うと落ち込む。気分が今日は体調が悪い。一ヶ月間の説教原稿を作る。日）



掃除、礼拝とごくいつもの日常。福岡女学院の子、その保護者、礼拝後、聖和幼稚園に鯉のぼりをkさんとoさんと、k園長の指導のもとあげもらう。いつか、一本のポールを立て、鯉を泳がしたい。入院中の引き継ぎを和やかに全員で打ち合わせをした。これが甘木教会の醍醐味。夜、総会での退任の挨拶の為に東京へ向かう。月）総会で退任の挨拶、上手くは話せなかった。退出して、同じ引退のK牧師が新宿末広亭の落語を聞きにいたいというので一緒に行く。今日は瀧川鯉丸さんで多くの人が来ている。そこで、先生とお別れして新宿をぶらぶらして、何があっても後悔しない為に、中村屋のカレーを食す。友人宅へ。火）朝、起きてメールのチェック、入院中、週報、「風のように」を作る。東京での仕事、今日も悔いが残らないように食事。



「神田・まつや」の蕎麦を食べる。少し高めを注文。孫と空港で会って、食事をし、送ってもらう。無事、帰宅。水）日善幼稚園へ。午後から大学病院へ。入院かと言われていたが、再検査することになり、エコーを取られ、両手から血液を抜かれる。再検査の結果をみて、入院かどうかは21日に決定するという。「はい」と言うしかない。木）松崎保育園で聖書の学び、礼拝。「野の花を見よ」という聖句。私が最初に覚えたのは「母子草（ははこぐさ）」。

説教でこの花を紹介。礼拝が終わると日善幼稚園で怪我人が出て、急遽、園に戻る。松崎保育園の職員に日善幼稚園まで送っていただく。早く、着く。結果を待つ。病院で検査いただくと子どもは何もなく、ホッとする。ヒアリハットで確かめをして、次に起こらないように情報を終礼で共有。自分の検査物を大学病院に届けに行く。届けるだけで220円を取られる。不思議。職員会議事録を作成。本当は甘木で過ごす予定だった。今週は自分の思う予定通りにならない。金）雨が降る前に庭の掃除、そして子どもたちを外で遊ばす。ダンゴ虫取りに夢中な子どもがいる。どうして、ダンゴ虫が子どもは、好きなのだろう。